

これまでにあった意見等

第1回市立特別支援学校設立準備委員会(5月26日)

第1回松本市総合教育会議(5月29日)

市民・保護者説明会(6月9日、21日)

第2回市立特別支援学校設立準備委員会(7月15日)

1 設置方針（案）について

○取組み全体

- ・小学校内に特別支援学校の機能を包み込んだような学校づくりができないか。取組みが広がることで、学校教育法の改正など、日本の学校教育を変えるきっかけになる。県とも連携し、特別支援教育の諸課題に取り組み、発信して欲しい。（第1回準備委員会）
- ・子どもが日常を共に過ごし成長する中で、障がいの有無に関わらず、自身が持っている力を発揮できるようにして欲しい。障がいのない子が障がいのある子に優しくするという一方的なものではなく、それぞれが自分を大切にできる学校にしたい。（第1回準備委員会）
- ・大人目線でインクルーシブ教育を推進すると、一緒に学んでいるという形にこだわってしまうことがある。子どもの自発性や主体性を大切に、ニーズに合わせた学びができるよう検討して欲しい。（総合教育会議）
- ・基本理念にあるフラッグシップ校の表現について、小中学校と特別支援学校が合わさり、松本市のインクルーシブ教育のフラッグシップ校になるという表現に変えるべきである。（第2回準備委員会）

※基本理念(案) 市立特別支援学校を松本市のインクルーシブ教育のフラッグシップ校に！

- ・設置校ではインクルーシブ教育や多様性への理解が進むと思うが、それ以外の学校では進まない。すべての学校に広がるように考えて欲しい。（説明会）
- ・インクルーシブ教育の推進について、子どもや学校の中だけの話ではなく、社会全体の意識や行動も変えていって欲しい。（総合教育会議）
- ・大きなチャレンジであるので、取組みの効果検証の観点を持って進めて欲しい。（総合教育会議）

○障がい種・障がいの程度

- ・知的障がいに絞らず、すべての障がいのある子を受け入れて欲しい。（説明会）
- ・重度重複障がいの子どもの受入れについて、設立当初から検討して、取り残さないようにしていくべきである。（第2回準備委員会）
- ・重度重複障がいの子どもの受入れについて、学校を運営する中で、ニーズ把握等を行い、検討していく必要がある。（第2回準備委員会）

○教育内容

- ・小学校と特別支援学校の児童が、朝会や給食、清掃など、日常的・継続的に学び合えるよう、教育課程の一部を共有するなど、学びを重ねていく取組みが重要（第1回準備委員会）
- ・子どもたちが生きていく社会には、多様な背景があることを普通学級に通う子どもが学べることは非常に重要。同じ空間にいただけでは交流が生まれないので、意図的な交流機会の創出も必要（総合教育会議）
- ・日常の教育や交流がどのように行われていくのか早く明らかにして欲しい。（説明会）
- ・先生や保護者、児童生徒が心の余裕をもって、優しい気持ちになれるように、授業スケジュールに余裕と柔軟性があるように考えて欲しい。（説明会）

○教職員や児童生徒等の理解

- ・インクルーシブの理念を阻むのは人の意識。今後2年間で様々な人の意識をどれだけ変えられるかが鍵となる。特に教員の意識改革が進められるかは、学校設置の意義にもつながる。子どもたちとも、どんな学校にしたいかを一緒に考えてもらいたい。（第1回準備委員会）
- ・準備段階から、設置される小中学校の受入れ体制や児童生徒の理解が重要（説明会）
- ・併置することによる、既存の学校へ影響もある。分断が生まれないように、考えていく必要がある。就学判断の仕組みや受け入れ側の教員の意識も大事になる。（総合教育会議）
- ・併置される小中学校の先生も、どのような学校になるのか現時点ではイメージしづらいと思う。併置校を決まったところで、教職員や児童にも説明をしながら進めていく必要がある。（第2回準備委員会）
- ・小中学校と特別支援学校の先生たちが、校内で助け合いや助言をしあえる中で、学校運営が進むようにして欲しい。（第2回準備委員会）
- ・設置校に限らず、障がい理解のある教職員の育成に力を入れて欲しい。（説明会）
- ・学校だけでなく、地域でも保護者同士や子ども同士のつながりが出来て欲しい。（説明会）
- ・併置する小中学校の児童生徒や保護者の不安への配慮も考えて欲しい。（説明会）

○多様な学び場の整備

- ・柔軟に学びの場を変えるため、就学判断や学びの場の見直しもスムーズにできることが重要（第1回準備委員会）
- ・発達障がい児の保護者も悩みや不安を抱えている。相談環境の充実を期待する。（説明会）
- ・子どもの状況に応じた学びの場の見直しを毎年行えるようにして欲しい。（説明会）

○就学判断

- ・市立特別支援学校ができることで、本来は特別支援学級に通う子どもを特別支援学校で受け入れることのないよう、子どもにとって適切な学びの場を判断することが必要（第1回準備委員会）
- ・子どもの就学先は、子どもにとって一番安心して成長ができる最良の学びの場はどこかという視点で考えていく必要がある。（第2回準備委員会）

○就労・社会参加

- ・学校を卒業した子どもたちが豊かに生活していけるためにも、商業施設の方など地域の人たちとも連携し、インクルーシブな共生社会への取組みを進めて欲しい。（第1回準備委員会）
- ・学校に通う期間は人生のうちでは短い期間になるので、卒業後も考え、自分らしく生活できるように取り組む必要がある。（説明会）

○スケジュール

- ・障がいのある子も共に時代を作っていくことが必要であると思うと、できるだけ早くそういう環境を作っていくべきではないか。（総合教育会議）
- ・対象学年にならないお子さんがいるが市立特別支援学校で学べないのか。（説明会）
- ・希望する全学年が入学できるように、早急に進めるべきではないか。（説明会）

○放課後等デイサービスの充実

- ・障がいを持つ子の保護者のキャリアアップの視点から、放課後等デイサービスなどの福祉分野と連携し、基礎自治体だからこそできる市民生活の向上につながるようにしたい。（第1回準備委員会）

○人材

- ・副学籍コーディネーターを専任で配置し、地域の小中学校との関わりを深めて欲しい。（説明会）

2 設置場所・施設について

○設置場所

- ・旭町中学校と女鳥羽中学校は分校を抱えており、この2校の支援学校長兼務は、学校や校長への負担が大きい。（第1回準備委員会）
- ・岡田小学校と女鳥羽中学校への併置であれば、通い慣れた場所に通えることになり、安心感が高いのではないかと。（説明会）
- ・源池小学校近くのアガタの森公園は、広い公園であり、多くの人が集まることから、特別支援学校の活動も広がると思う。また、高校なども近隣にあることから、交流の可能性を感じる。（第2回準備委員会）
- ・有力候補の源池小学校については、歴史的にも特別支援教育に取り組んできた学校である。また、今の「総合的な学習の時間」に相当する児童主体の学習を「みどりの時間」として、長年取り組んでいる。特別支援学校と源池小学校が一体となって学ぶ機会になるのではないかと。（第2回準備委員会）
- ・清水中学校は、交通の便もよく、校地にゆとりがある。（第2回準備委員会）

○スクールバス

- ・スクールバス運行は、須坂支援学校でも要望があると聞いており、検討が必要になる。（総合教育会議）
- ・北部方面に学校が出来ても送迎負担が大きいので、スクールバスの運行を検討して欲しい。（説明会）

○施設整備

- ・教員同士の意識共有のため、小学校と特別支援学校の職員室は同室にするべき。（第1回準備委員会）
- ・オープンなスペース、個別活動に対応できるスペースも必要。将来的な受け入れを研究する重度重複障がい等、障がいの程度に応じた設備や柔軟に対応できる設計などを想定する必要がある。（第1回準備委員会）
- ・スクールバスを運行する場合の乗降場所や保護者の送迎の動線も考慮する必要がある。（第1回準備委員会）
- ・須坂支援学校では空き教室を利用しているが、狭あいになっているとのことで、児童生徒数と想定と、施設規模の設定は、十分に調整を図って進めるべき。（総合教育会議）
- ・ハード整備にこだわらず、ソフト面の充実を重視して欲しい。（説明会）
- ・中心市街地では、学校周辺道路が渋滞もすることから、送迎のルールや、校内での安全な動線や乗降場所の確保の検討も行う必要がある。（第2回準備委員会）
- ・職員数の増加に合わせて、職員駐車場の確保が課題になる。（第2回準備委員会）
- ・プレイルームは、児童数に応じて広い面積を確保し、天井も高い方が良い。更衣室の整備は必要（第2回準備委員会）
- ・学校によっては廊下が暗いことがあり、暗さに抵抗感を持つ子どもいる。学校施設の照明や材質について、様々な児童がいることに配慮して検討する必要がある。（第2回準備委員会）

3 進め方について

○保護者や当事者等へのヒアリング・意見聴取

- ・子どもの感覚では、幼稚園・保育園まで障がいのある子も含めて一緒に過ごし、就学時に小学校と特別支援学校に分かれてしまうことは疑問に思うようだ。子どもは柔軟に対応できるので、様々な子どもと一緒に学ぶことは大切。子どもの思い、保護者の思い、学校側からの思いを整合させることは難しい部分もあるので、慎重に進めて欲しい。（総合教育会議）
- ・学校関係者だけでなく、保護者や当事者への意見聴取も十分行って欲しい。（説明会）
- ・ニーズ調査や保護者の声が必要だと思うので、今後調査実施を検討して欲しい。（説明会）
- ・就労の関わる事業所や障がいを持って育ってきた当事者の意見も入れるべき。（説明会）

○セミナー等による情報提供

- ・取組みを丁寧に伝える努力を続けることで、保護者に安心感を持ってもらうことが必要（総合教育会議）
- ・スケジュールに合わせ、対象となる児童の保護者への説明や放課後等デイサービスの提供事業者などにも、必要な情報提供をしていく必要がある。（第2回準備委員会）
- ・障がいのある保護者向けの学びの場を定期的を開催して欲しい。（説明会）

4 現在の特別支援教育に関する意見

○副学籍制度

- ・ 副学籍制度での交流活動について、地域の小中学校の理解を得られないことがある。（説明会）
- ・ 副学籍制度は保護者の負担で成り立っており、負担軽減を考えて欲しい。（説明会）

○その他

- ・ 重度重複障がいの児童生徒の登下校は、現在もスクールバスではなく保護者の送迎となっており負担が大きい。（説明会）